

安全・安心まちづくり

防犯パトロールの 手引き

■ 目次	1 防犯パトロール隊の立ち上げ方……………	1
	2 防犯パトロールの準備……………	2
	3 防犯パトロールの方法……………	4
	4 防犯パトロールのポイント……………	6
	5 防犯パトロールの有効活用を……………	8
	6 防犯パトロールで注意すること……………	10
■ 落書き防止マニュアル		12

はじめに

防犯パトロールの必要性

神奈川県では、平成14年に刑法犯認知件数が過去最悪の約19万件を記録しました。県では、県民の皆さんが安全で安心して暮らせる地域社会を築くため、平成17年に「神奈川県犯罪のない安全・安心まちづくり推進条例」を施行し、県と県民の皆さん、そして事業者の皆さんたちによる県民総ぐるみ運動を展開してまいりました。

県内の各地域では、住民の皆さんが「自分たちのまちは自分たちで守る。」という自主防犯意識を持ち、現在まで県内に約2,200の防犯活動団体を立ち上げていただきました。

そして、自主防犯活動団体の方々を中心に、地域の皆さんが一丸となって防犯活動を行っていただいたことや、警察、行政と一体となった、さまざまな防犯の取組みを進めていただいた結果、平成24年中の刑法犯認知件数は約7万6,000件と、平成14年の約4割近くまで減少させることができました。

しかし、安全で安心して暮らせる地域社会を維持するためには、地域の皆さんが協力し、さまざまな防犯活動を継続して実施することがとても重要です。地域の皆さんができる防犯活動のうちで、最も手軽で誰でも参加でき、そして最も効果的な活動が、「防犯パトロール」です。

泥棒が犯行をあきらめた一番の理由が「近所の人に見られた。声をかけられた。」ことです。まちの連帯感が強い地域では、空き巣などの犯罪の発生が少なくなっています。

防犯パトロールは、泥棒を捕まえる活動ではありません。パトロールをしている姿を見せたり、地域の皆さんが声をかけあうことにより、自然に地域のコミュニティが生まれ、犯罪者を寄せ付けないうち、犯罪に強いまちができていくのです。

このマニュアルでは、これから防犯パトロールをしてみたいと考えている方や、すでに防犯パトロールを行っている皆さんのために、どうしたら効果的なパトロールが出来るのかなどをわかりやすく説明しています。

皆さんの自主防犯活動によって、安全で安心して暮らせる地域社会を実現しましょう。

1

防犯パトロール隊の立ち上げ方

有志を募りましょう

自治会（町内会）やPTA、会社や商店街など、地域に住んでいる方や働いている方で、パトロールに参加できる方を募りましょう。

また、時間に余裕のある方や毎日犬を散歩させている方、地域の安全に関心のある方などにも呼びかけましょう。

まとめ役を決め、活動計画をたてましょう

有志の方が集まったら、パトロールを効果的に推進するため、まとめ役や連絡役（リーダー・サブリーダー）を決めましょう。

まとめ役を中心に活動計画を話し合い、どのような目的でパトロールをするのか共通認識を持ちましょう。

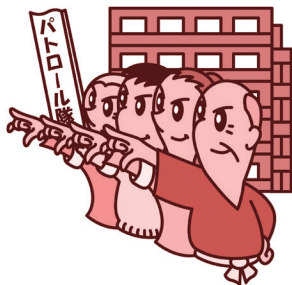
警察からの情報を参考にパトロール方法を決めましょう

パトロールは、地域を管轄する警察署や交番が発信する犯罪情報を参考にして、目的に沿った時間や場所を選定しましょう。例えば、空き巣を防ぐのであれば、空き巣が多発する時間帯に住宅街の路地裏を重点的に行い、登下校時の連れ去り等を防止するのであれば、登下校の時間帯に学校周辺を重点的に行うなど、目的や地域の実情に合った方法で実施することが大切です。

パトロールの開始を知らせましょう

パトロール方法が決まったら、自治会（町内会）の会合、回覧板、広報紙などを利用して、地域に住んでいる方、地域で活動している防犯ボランティア、地元の会社などに知らせるとともに、パトロールへの参加を呼びかけましょう。

また、地元の警察署のほか、市町村（防犯関係担当課等）にも、パトロールを始めたことをお知らせください。



2

防犯パトロールの準備

パトロール活動を円滑に展開するため、次のような準備をお願いします。

警察、自治体等との連携

地元警察署の生活安全課や交番、市町村等に、パトロールの趣旨、方法等を説明し、協力を依頼しましょう。パトロールは地域ぐるみの防犯対策です。警察や関係機関等と連携した活動が効果的です。

また、関係機関や地域住民の方から、地域の情報を収集しましょう。地域の現状を把握することは、効果的なパトロール活動を進めていくための基礎になるものです。関係機関等との情報交換を密にし、実情に即した活動を展開しましょう。

特に犯罪の発生状況は、パトロールを実施する上で、パトロールコースや重点的なチェック項目の選定等に大変参考になるので、警察との情報交換は不可欠です。

パトロール時の服装

パトロールは身軽で活動的な服装で行ってください。

パトロール中であることをアピールすることが大切です。

パトロールが泥棒などに対する抑止力になるには、防犯活動であることを示した腕章、タスキ等を着用し、一緒に服装で活動すると効果的です。夜間パトロールでは、事故防止のためにも、反射材や蛍光色を使用した服装を心掛けてください。靴は、活動しやすい運動靴を使用しましょう。

携行する物品

パトロールのとき用意する服装以外の物品は、次のとおりです。

- 携帯電話……………110番通報や緊急時の連絡用
 - メモ帳・筆記具……………犯罪、不審者を発見したとき、危険箇所を発見したときの記録用
 - 懐中電灯・赤色防犯灯……………夜間パトロールの場合
できれば
 - 拡声器、拍子木等……………パトロール中であることを周囲に
アピール
 - ホイッスル、防犯ブザー等…緊急時の連絡用
 - カメラ……………記録用
- 等があると便利です。

※ **木刀やバットなどは携行しない**ようにしましょう。

なお、パトロール中は両手が使えるように、物品はウエストポーチ等に入れて持ち歩きましょう。

パトロール日誌

パトロールを行ったら、必ず記録を残しましょう。

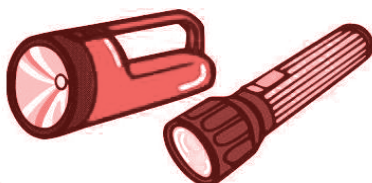
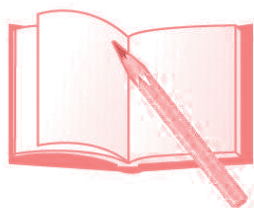
詳細な記録でなくても、実施した時間やコース、パトロール中に気づいたこと等の記録を残し、次の人に伝達することにより、パトロールする人（班）が変わっても注意事項等を引き継ぐことができ、パトロールを一層効果的なものにできます。

またパトロール後、警察や関係機関等と情報交換する際の資料として活用できます。

パトロール日誌の例

参考までに、必要と思われる項目をまとめました。パトロールの実情に合わせて、工夫してください。

日時	平成〇〇年〇〇月〇〇日 〇〇時〇〇分～〇〇時〇〇分
天候	〇〇〇
参加者	〇〇人（責任者 △ △）
場所	1コース 〇〇町内会館～〇〇公園～〇〇小学校～〇〇町内会館 （〇〇人 リーダー△△） 2コース 〇〇町内会館～〇〇団地～〇〇商店街～〇〇町内会館 （〇〇人 リーダー□□）
内容	声かけ、危険箇所の点検、拡声器による広報の実施
パトロールの結果	・不審者、不審車両なし ・〇〇に設置されている防犯灯の電球が切れていた。要修理依頼 ・△△に不法投棄自動車を発見。警察に連絡済
記入者	〇〇
備考	



3

防犯パトロールの方法

防犯パトロールは、皆さんが主体となって行うものです。ここで紹介する方法は、あくまで一例ですので、皆さんがお住まいの地域に合った方法でパトロールをしてください。

パトロールの目的を明瞭に

空き巣の被害防止、通学路の安全点検等、何のためにパトロールをするのか、はっきりと目的を決めて行いましょう。

パトロールは複数で

2人以上で、できれば4、5人を1グループにしましょう。

多くの目で見ることにより、より多くの危険箇所などを発見できます。例えば、不審な車を発見したときには、1人はナンバー、1人は車の特徴、1人は運転手の特徴など、役割を決めて覚えるようにすれば、きめ細かく確認できます。



犯人の視点で

屋外で犯罪にあう方は、多くが歩行中や自転車乗車中の方です。徒歩や自転車でパトロールし、犯人と同じ視点で見ることによって、犯罪にあいそうな場所や危険な場所などを確認することができ、注意喚起に役立ちます。危険な場所などのパトロールの結果は、防犯灯の設置を要望する際などにも役立ちます。

声かけをしましょう

まずは、「おはようございます」「こんばんは」といった、あいさつだけでも十分です。犯罪者は、地域住民に声をかけられることを嫌います。地域のみなさんが声をかけ合うことにより、地域の連帯感が一層向上します。

できる範囲で行ってください

パトロールは、夕方や夜間だけでなく、朝や昼も毎日行うことがより効果を高めます。しかし、何事も負担になっては、長続きしません。無理せず、皆さんのできる範囲（時間帯・場所）でパトロールすることが大切です。

例えば、次のような取組みも有効です。

- 朝の散歩や犬の運動をする時、仲間を誘って2～3人でパトロール中のタスキをかける。
- お子さんの学校等で会合がある時、何人かで待ち合わせ、パトロール中の腕章をして学校へ行く。



パトロール後の情報交換

パトロールの結果については、パトロール日誌などを活用して情報交換することによって、危険な場所の改善、子どもやお年寄りへの注意喚起など、犯罪の起きにくい地域づくりに役立ちます。

また、一定期間毎に、警察から地域の犯罪発生状況の情報を得て、パトロールの効果について検証しましょう。それに基づいて、実施時間や巡回場所などの変更を試みるのも有効です。

広報活動

パトロールの結果からわかった危険な場所などについては、警察から提供された犯罪情報とともに、回覧板や掲示板を利用して広報し、注意喚起することも重要です。

パトロールから知り得た危険な場所や注意する場所などを地図に示した『地域安全マップ』、『交通・防犯マップ』等を作成し、地域に配布することも犯罪や事故の抑止に効果があります。

4

防犯パトロールのポイント

パトロールをアピールしましょう

犯罪者がパトロールに気付かなければ、犯罪の抑止効果がありません。また、地域全体での防犯意識の向上にもつなげるため、周囲にアピールしながらパトロールすることが重要です。そのため、のぼりを立てたり、揃いの腕章、タスキ、帽子などを着用して視覚に訴えたり、あいさつ、声かけや拍子木などで聴覚に訴えるなど、いろいろ工夫してアピールをしてください。

「ただいまパトロール中です」などと声をかけながら歩いたり、掲示板などに「パトロール実施中」といった掲示をするのも効果的です。

積極的なあいさつを心掛けましょう

過去の調査結果によれば、泥棒などが犯行をあきらめた理由の第一位は「近所の人に見られたり、声をかけられたから」でした。

泥棒の多くは下見をしています。「おはようございます。」「こんばんは」といった、積極的なあいさつ、声かけは効果絶大です。



見慣れない人や不審な車がないか注意しましょう

見慣れない人がいたら、あいさつをして様子を見ましょう。不審に感じた場合は、相手と離れてから警察に通報してください。その際には相手の顔、体格、服装などの特徴を覚えておきましょう。

不審な車を発見した場合は、ナンバーや車の特徴などをメモしておくことも重要です。また、放置されているバイクや自転車は、再度盗まれたり、犯罪に使われるおそれもありますので、警察に通報しましょう。

犯罪の現場を目撃した場合には無理をせず、身の安全を優先したうえで警察（110番）へ通報してください。

犯罪の発生しそうな場所がないか注意しましょう

街灯が少なく暗い道路は、犯罪が発生する危険性が高い場所です。そういった道路には防犯灯の設置を依頼したり、沿道の家庭に門灯の夜間点灯を協力してもらうなどして、暗がりをなくしましょう。

また、街灯が壊れている場合は、速やかに管理者に修理を依頼しましょう。

公園などで、周囲から死角になっている場所も犯罪発生の危険性が高い場所です。管理者に常夜灯の設置や樹木の剪定、雑草の草刈りなどを依頼して、見通しをよくしてもらいましょう。

子どもやお年寄りを守りましょう

小さな子どもを狙った犯罪が懸念される場合は、小学生などの登下校の時間帯に、通学路を中心に巡回しましょう。

その際も、積極的にあいさつし、不審な人や車がないか確認しましょう。

小さな子どもがひとりで遊んでいるのを見かけたときは、周りに不審な人物がないことを確認して、「なるべくひとりでは遊ばないようにね」「知らない人について行っちゃだめだよ」「危ない時は大声で叫ぶんだよ」などと声をかけてあげてください。

お年寄りや女性が人通りの少ない道を歩いているのを見かけたときは、「なるべく人通りの多い道を選んで歩いてください」「バッグを車道側に持たないでください」など、ひったくりなどに対する注意を促してください。

自転車に乗っているのを見かけたときは、「防犯ネット」や「防犯カバー」をカゴに取り付けるように勧めてください。

Q&A

Q パトロール隊は何人ぐらい必要なの？

A 多くの人に参加すれば、一人あたりの負担は軽減されます。パトロールの方法や目的により異なりますが、例えば3人一組で毎日1回パトロールをしても、21人以上集まれば、週1回の参加でOKです！

Q 活動計画ではどんなことを決めればいいのか？

A パトロールの方法、時間、場所、班の編成などの基本的なことを決めておきましょう。無理なく長続きできるように、地域の実情に合わせて弾力的に運用しましょう。

Q 危険なことはないでしょうか？

A パトロールの目的は、地域の皆さんが自らの手でまちを守っていることを示すことです。無理をしないで、事件や事故にあったら、すぐに警察に連絡してください。

5 防犯パトロールの有効活用を

日常のパトロールを有効に活用して、まちの安全・安心を図ることが大切です。ここに、いくつかの例を掲載しますので、みなさんがお住まいの地域に合った活用方法を試みてください。

活動を周知させましょう

犯罪者は、住民の結束を一番恐れています。住民の結束により犯罪対策を強化したことを示す「防犯パトロール重点地域」や「防犯パトロール巡回中」等の看板を街の中に表示する試みは有効です。

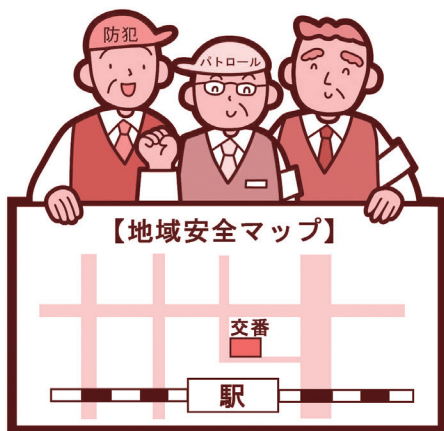
これから犯罪を行おうとする者に対し、このまちでは犯罪を起こさせないことを知らしめましょう。

地域安全マップを作成しましょう

パトロールをした後の情報整理として、犯罪多発地帯等を地図上に明記する「地域安全マップ」を作成してみてもいいでしょうか。

防犯活動を地域全域で行うのは困難でも、犯罪多発地帯を中心に防犯活動をすれば、効率的なパトロールを行うことができます。

住民同士で犯罪者に狙われやすいまちの弱点を探し、積極的に犯罪対策を図りましょう。



パトロールカードを活用してみましょう

「パトロールカード」とは、住民に防犯上注意をしてもらいたい事項やパトロール活動中に気付いた点などをメモ書きしたカードのことをいい、パトロール活動中に各家庭に配布して回ります。

「パトロールカード」は、住民の自主防犯意識の向上を促すとともに、安心感を与える効果があります。

パトロールカードの例（参考）

パトロール カード

本日、この町内でパトロールを実施しました。
空き巣に注意!!泥棒は必ず下見をします。
犯罪を未然に防ぐため、次の点に注意しましょう。

- 塀や生け垣、庭木が高く、泥棒が身を隠す場所を提供する形となっています。
庭木を剪定したり、見通しのよいメッシュフェンスにすることをお勧めします。
- 家の周りに、侵入の足場となるものが置かれています。
上階への足場となるものを撤去したり、上階の防犯対策をしっかりと行うことをお勧めします。
- 新聞が溜まっています。泥棒に留守であることを知らせています。
新聞はこまめに取り込み、長期間留守にするときは配達を止めましょう。
- 建物周辺が暗いようです。
外灯やセンサーライトを設置することをお勧めします。

- ★泥棒の多くは、窓からの侵入を試みます。主錠のほか、補助錠を取り付けたり、防犯フィルムを貼るなど対策をとりましょう。
- ★防犯に大切なのは、住民の皆さんの目です。ご近所同士で声を掛け合って、明るいまちづくりを心掛けましょう。

〇〇町内会 パトロール隊

Q&A

Q 街中で長年放置され、壊れかけた防犯看板を見かけますが、効果があるのでしょうか？

A 防犯上、逆効果です。
壊れかけた防犯看板の放置は、犯罪者の目には、その地域の防犯意識の欠如と映ります。こうした看板は、パトロールの際にチェックし、設置者に連絡しましょう。

Q 「地域安全マップ」は、どのように作成したらいいの？

A 犯罪者が好むのは、「人通りが少ない」、「ゴミゴミしている」、「障害物が多い」、「照明がない（少ない）」などの場所です。
こうした場所と過去の犯罪データを地図上に記入することで、犯罪多発地帯や犯罪が起こる可能性が高い場所が浮かび上がってきます。さらに交通事故多発地帯や通学路、子ども110番の家などの情報も併せて記入することで、活用の幅がぐっと広がります。

6 防犯パトロールで注意すること

交通事故に気をつけましょう

パトロールの際には、周りの状況に注意し、交通ルールを守って事故に遭わないように注意してください。

夜間は、白っぽい服装や夜光ベストの着用、反射材の活用など、できるだけ目立つ服装で、集団で行動してください。



不審者等を見つけたら警察(110番)へ通報してください

声をかけたり、無理して捕まえようとしないでください。

※ 公衆電話や携帯電話からでも、110番通報ができます。(市外局番はいりません) 通報を受けた警察官は順を追って次のことをお尋ねしますので、あわてずに答えてください。



- 何がありましたか?..... 空き巣、ひったくりなど
不審者目撃の場合は、具体的な行動を教えてください
- いつですか?..... たった今、〇〇分前など
- どこですか?..... 市区町村名、番地、目標物など
- 犯人はどんな人でしたか?..... 人数、服装、特徴、凶器の有無など
- 犯人は何を使って逃げましたか?… 徒歩、自転車、自動車など
- 逃げた方向は?..... 〇〇通り、〇〇駅方向など

このほか、事件の内容により、さらに詳しくお尋ねすることがありますが、通信指令室では、皆さんからの110番通報を受けている間にも、現場に最も近いパトカーやパトロール中の警察官を現場に急行させています。

プライバシーを守りましょう

パトロールで知り得た個人に関する情報は、決して漏らさないようにしましょう。

パトロール中に写真等の記録をとる場合も、個人のプライバシーに配慮しましょう。

ボランティア保険等について

パトロールの際に万が一事故等に遭った場合のために、いろいろな保険制度があります。保険の加入方法や適用条件等、詳細については、お住まいの市町村の担当係にお問い合わせください。

また、県には、パトロール中にボランティアの方々が事故により負傷した場合などに、給付金を支給する制度があります。事前に団体登録していただく必要がありますので、詳細については、

県くらし安全交通課 (TEL045-210-3517)

にお問い合わせください。

防犯パトロールの手引き

平成25年3月発行（第3版）

発行者 横浜市中区日本大通1
神奈川県安全防災局くらし安全交通課
電 話 045 (210) 1111 (代表)

ホームページ

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f707/p8065.html>

安全・安心まちづくり

落書き防止マニュアル

1 落書きさせないまちづくり

落書きは治安のバロメーター

落書きを放置すると、犯罪者にとっては、警察や地域住民の監視の目が行き届かない無関心な場所と見られ、周辺で痴漢やひったくりなどの身近な犯罪が起きやすくなります。また、一度落書きをされると次から次へと落書きが増加します。

落書きの放置が地域の治安悪化の原因に ※『割れ窓理論（ブロークンウィンドウズ理論）』

割れた窓ガラスをそのままにしておくと、その建物は十分管理されていないと認識され、他の窓ガラスも割られ、建物全体が荒廃する。同様に小さい犯罪を放置しておくと、それまで治安がよかった地域でも住民や警察の目が行き届いていないと判断され、他の犯罪を誘発し、やがて凶悪犯罪まで発生するようになるという理論です。



落書きを見つけたら～声をかけ、地域で防止しましょう

落書きは地域全体の問題です。まずは地域で落書きについて話し合い、地域で落書きの防止に取り組みましょう。

落書き消去は地域住民が一体となって取組みを

まちの落書き防止をひとりで取り組むのは大変です。地域の皆さんが一体となり、地域全体で取り組むことが必要です。まずは、地域の皆さんに声をかけましょう。

※ 落書きは、すぐ消すことで新たな落書きの防止や地域の治安維持にもつながります。

まず、被害状況を把握しましょう

まちで落書きの被害を見つけたら、まずは、地域の皆さんで落書き被害の状況を調べましょう。

※ 落書きの種類（スプレー、マジック、シールなど）や場所（壁、電柱、ガードレールなど）を記録しましょう。



早く消しましょう!何回でも消し続けましょう!

落書きの拡大を防ぐには、見つけたらすぐに消すことが大切です。また、消した後も落書きをされないように監視の目を光らせ、「落書きされたら、すぐに消す」という意識を持って消し続けることで、「このまちは、落書きを絶対に許さない」という姿勢を示すことができます。

落書き消しを次の行動につなげましょう!

落書き消しに集まった地域の力を生かして防犯力の向上につなげましょう。

●パトロールの実施

被害が集中している場所などを中心にパトロールを行い、地域が厳しく監視していることをアピールしましょう。

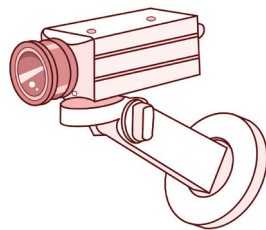
●落書き禁止の表示

「落書き禁止」等の表示をして、地域が落書きさせないまちづくりに取り組んでいることをアピールしましょう。

※ 表示の際には、必ず管理者の了解を得ましょう。

●防犯カメラ等の設置

防犯カメラやセンサーライトなどを設置しましょう。落書き犯人は、人に見られることをおそれていますので、防犯カメラやセンサーライトの設置が効果的です。



2 落書き消去の手順

■ ステップ1【現地調査の実施】

地域の落書きの被害状況を調査して、消去する場所を決めましょう。
※ 無理のない範囲で決定しましょう。

■ ステップ2【消去方法の検討】

事前に消去方法を決め、必要な資材を準備しましょう。

■ ステップ3【消去についての了解の取得】

落書きされている場所（壁、シャッター、電柱等）の所有者に対して、消去の方法（塗料の色など）や実施の日時などを十分に説明し、了解を得ておきましょう。

■ ステップ4【役割分担の決定】

事前に、当日の「リーダー」「落書きを消す係」「通行者の誘導係」などの役割分担を決めておきましょう。

■ ステップ5【落書き消去活動の実施】

地域の皆さんで落書き消去活動に取り組みましょう。

3 落書き消去の事前準備

【服装等】

塗料が髪の毛や衣服に付くと簡単には落ちません。帽子や手袋を着用し、塗料が付いてもかまわない服装にしましょう。また、市販のビニール合羽やエプロンなどを着用する方法もあります。

【用具】

塗料、薄め液（塗料にあったもの）ハケ、ローラーハケ、小分け用の缶、トレイ、受け皿、マスキングテープ、ブルーシート、新聞、手袋等



4

落書き消し方 その1

【塗って消す方法（塗料で上塗りする）】

① 汚れを落とします

塗料で上塗りする部分をデッキブラシなどを使って、ホコリやカビ、コケなどをきれいに取り除きます。



② 塗る範囲を決める

落書きを消去する部分をマスキングテープなどで囲み、塗料で上塗りする部分を決めます。



③ 塗料の飛散を防止する

塗料を塗らない部分や路面に塗料がつかないように、新聞紙やブルーシートなどでカバーします。



④ 塗料を準備する

塗料をバケツ（容器）に入れて準備します。



⑤ 塗料を塗る

ローラーを使って、一度W字型に塗り広げてから、上下にならすようにして塗りすすめます。



⑥ 消去完了

落書きが見えなくなるまで塗ったら消去完了です。



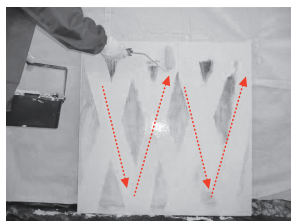
【きれいに塗るコツ】

- その1 塗料を正しく選びましょう。
- その2 薄め液は塗料に対応するものを使いましょう。(※塗料缶に表示されたものを使いましょう)
- その3 ハケ、ローラーの種類は塗装するものに合わせて選びましょう。
- その4 晴れた日に塗装しましょう。
- その5 塗装前には、必ず塗装面の汚れ、さび、油分を除去し、下地をきれいにしましょう。
- その6 塗装しない部分や塗料がついては困るところには、しっかりとマスキングをしましょう。
- その7 塗料は、棒などでよくかき混ぜて使いましょう。
- その8 重ね塗りをする場合は、表面がよく乾いてから塗りましょう。



【ローラーによる塗り方のコツ】

①塗る面には、最初W字型に塗料を配り、上下左右に塗り広げます。



②軽く上から下へ、下から上に、そして横へとローラーを動かして塗料を伸ばして仕上げます。



注意事項

- 街頭での作業がほとんどです。消去作業に熱中するあまり、自動車や通行者などにぶつからないように、作業現場の安全を注意する監視員や通行者を誘導する方を配置しましょう。
- 道路等で作業する場合は、必ず警察署等に作業日時と場所を届け出をしましょう。
- 消去作業で周りの建物や壁などを汚さないよう十分注意するとともに、使用した資材等はきちんと片づけましょう。
- 脚立やはしごを使用する高所作業は避け、長い竿付きのローラー等で作業しましょう。
- 作業終了後も、塗料が完全に乾燥するのを確認し、第三者の衣服などにつかないよう配慮しましょう。
- 使用したハケやローラーを洗った污水は、雨水管などに絶対に流さないようにしましょう。(※近隣の河川を汚濁するおそれがあります。)

5 落書き消し方 その2

【拭いて消す方法（消去剤等で消去する）】

落書き専用消去剤を使用して、落書きを拭き取る方法です。下地が金属やタイル類などの場合に適しています。

※ 電柱やガードレールなどの落書きの消去に効果的です。

① 落書きの上から専用消去剤を塗る

落書き全体に専用の消去剤を塗ります。専用消去剤を吹きかけた後、1～2分待つて落書きに浸透させます。



② 拭き取る

専用消去剤が十分に浸透し、落書きが浮き上がるような状態になってきたら、ぞうきんなどで拭き取ります。



③ 繰り返し拭き取る

(①～③の作業を繰り返す) 落書きが残っている場合は、①から③の作業を繰り返して落書きが消えるまで拭き取ります。



④ 消去完了

落書きが見えなくなったら完了です。



注意事項

※ 消去剤には、身体や環境に有害な成分が含まれているものもありますので、よく確かめ、また環境にやさしいものを使用しましょう。

※ 塗装面やプラスチックなどの樹脂材表面の使用では、変色、脱色などの影響がある場合がありますので、目立たない場所で一度試してから使用しましょう。



神奈川県犯罪のない安全・安心まちづくり推進協議会

神奈川県犯罪のない安全・安心まちづくり推進協議会は、県内の行政機関のほか、学校関係団体、PTA関係団体、青少年・国際関係団体、福祉関係団体、地域・婦人関係団体、経済・事業者関係団体、ライフライン・交通関係団体、労働団体、建築・住宅関係団体、防犯関係団体及び地域の安全・安心まちづくり推進協議会、計159団体の参画を得て、安全・安心まちづくりをめざした県民運動を展開しています。

落書き防止マニュアル

平成25年3月発行（初版）

発行者：神奈川県犯罪のない安全・安心まちづくり推進協議会

連絡先：神奈川県くらし安全交通課 045(210)1111(代表)

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f707/p8065.html>

協力：神奈川県塗装工業協同組合

（一般社団法人 日本塗装工業会神奈川県支部）

